



歌浦っ子だより (学校だより)

「やさしい心 夢かがやく 歌小の子ども育成」

平成30年 6月 7日 文責:校長 内野義和

いのちを見つめる強調月間

6月1日(金)は「いのちを見つめる日」です。私たち佐世保市民は平成16年6月1日を決して忘れていけないと思います。とりわけ学校関係者は、365日のいのちの学習に取り組むという覚悟で教育活動に取り組む必要があります。本校でもそういう取組をしております。



さて、1日の朝、全校朝会で校長講話をしました。次のような話をしました。

- ①一昨年義父、昨年父、今年親友が亡くなった。悲しんでばかりいるのは亡くなった人も望んでいない。亡くなった人を大切に思うことで、つらさや悲しみは小さくなっていく。心の中に、大切に感じるいのちとしてずっと残る。いのちの終わりを考えることで、いのちの大切さがある。限りあるいのちを大切に生きていくこと。
- ②講演会で聞いた話。ある人がある中学校で、「死にたいと思ったことのある人」と聞いたところ、平気で何人もの生徒が手をあげた。その一方で、黒柳徹子さんがアフリカの難民キャンプを訪れたとき、5歳ほどのやせ細った女の子に「大きくなったら何になりたいの?」と聞いたら、「大きくなるまで生きていたい」と答えたとのこと。苦しい生活をしているアフリカの女の子からしたら、何1つ不自由のない日本で「死にたい」と手をあげる気持ちはわからないと思う。しかし、「死にたい」ともし思う子がいたら、それはどういうことかなと私は思う。食事や生活が豊かでも心がさびしいのかなと思う。その原因がもしいじめにあるとしたら、大きな問題。

③人のからだと心はとてもきずつきやすいもの。いじめによって、からだや心がきずつけられると、その人は生きることがつらいと感じたり、いやになったりしてしまうことがある。それはその人のいのちをきずつけることと同じ。いじめは絶対にしてはいけない。

④「自分ひとりだけで生きていけるとおもいますか」。人と人は支え合って生きている。自分がだれかに支えられているのと同じように、自分もだれかを支えている。人と人のつながりは、みんなでつくっていくもの。お互いを思いやる気持ちが大切。支えられていることに「ありがとう」。

15分もの長い話だったにもかかわらず、子供たちは真剣に聞いていました。心に響くところがあったのかもしれませんが。最後に、「話は難しかったかもしれませんが。今月はいのちを見つめる強調月間です。担任の先生からお話をさらにくわしく聞いたり、道徳や学級活動でいのちについてさらに深く考えたりしてください」と言いました。

今月は深いいのちについて考える月です。主な活動として次のことを予定しています。

- ①アリスの会の方々による読み語り:毎週月曜日の朝
- ②民生委員さんによるあいさつ運動:12日(火)
- ③学校開放週間:18日(月)~22日(金)全教育活動を公開
 - 「笑顔の集い」:19日(火)朝(お世話になっているの方々をお呼びし、感謝の気持ちを伝えます。)
 - 道徳授業の公開(授業参観と懇談会):19日(火)5・6校時
5年生だけ18日(月)5・6校時
 - PTAによるAED講習会:19日(火)15:45~
 - 民生委員さんとの話し合い:19日(火)15:45~
 - スクールエリア推進委員会:19日(火)18:30~

このようにして、学校、保護者、地域が連携することで、心豊かな歌小っ子の育成を行います。ご協力、ご支援をお願いします。

(お知らせ:先日体育館の整理をしましたら、①小体連のユニフォーム、②大加勢のユニフォーム、③金管バンドのベレー帽や衣装が出てきました。学校予算で買っているものであれば処分しようと思っておりますが、もし寄付などの場合は了承をとる必要があると思います。購入についてご存じの方がいらっしゃいましたら、ご連絡いただけないでしょうか。よろしくお願いします。)